

死者の救いと生き残りの者の使命

—東日本大震災後の日本の人々の魂の課題—

東京信徒会講演会

6月21日(土)午後一時 富士見町教会

東北地方を中心に襲った巨大地震と大津波、加えて東電福島第一原発事故での放射能汚染——私たちはその悲惨な光景に、どう向き合うか戸惑い、あまりにも重い現実茫然と立ちすくみました。その折、阿久戸先生から聖書に基づいた明快な指針が示されました。あれから3年余、生き残っている私たちが、神から問われている使命について、どのように応答していったらいいのか、今回も阿久戸先生と一緒に、祈りつつともに考えていきませんか。



講師 学校法人聖学院

あ く ど みつはる
阿久戸光晴理事長・院長・教授

〈講師プロフィール〉一橋大学社会学部卒業・法学部卒業。東京神学大学院博士課程前期修了。神学修士。ジョージア大学法学部大学院、エモリー大学神学部大学院などを経て、2003年から2014年まで聖学院大学学長。2011年理事長・現院長兼務。専門はキリスト教社会学。日本基督教団滝野川教会牧師、東京池袋教会名誉牧師。荒川区民として区行政にも活躍。説教集『新しき生』、『近代デモクラシー思想の根源—「人権の淵源」と「教会と国家の関係」の歴史的考察—』ほか著書多数。

原発ゼロから再稼働へ政府方針転換

政府は4月11日、原発を「重要なベースロード電源」と位置付け、再稼働を進める方針を明記したエネルギー基本計画を閣議決定した。原発を成長戦略の一角に据える安倍政権の方針を反映し、民主党政権の掲げた「原発ゼロ」方針と決別した。再生可能エネルギーへの取り組み強化のため関係閣僚会議を設置。「核のごみ」への対処は今回も明確に示されなかった。(新聞各社報道)

基本計画は原発再稼働について、原子力規制委員会が規制基準に適合すると認めれば「その判断を尊重して進める」と表明。電力各社は停止中の原発再稼働へ向け申請書を提出する方針。

日本基督教団の被災地支援

地域の人々の救いに仕える教会の再建を目指して

1. 礼拝共同体の支援
2. 教会を通じての被災地域への支援
10億円募金の実績(4月21日現在) 858,393,734円
3. 11 祈禱会を継続実施

再生の朗報の陰で

三陸鉄道が2014年4月6日、約3年ぶりに全面復旧した。「復興加速に向けた原動力」として期待が寄せられるが、除染や仮設住宅から故郷への帰還が進まず、将来への不安は解消されていない。